

令和6年度 学校評価 自己評価書（一覧）

評価基準 A—80%以上（良い） B—60～80%未満（まあまあ良い） C—40～60%未満（あまり良くない） D—40%未満（良くない）

園学校名 安田町立安田中学校

項目	中長期経営目標	短期経営目標	短期経営目標の達成状況	自己評価	改善方策	関係者評価講評	関係者評価
確かな学力	教科間連携を核として、基礎学力の定着、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、教科指導力の向上、ICTの効果的な活用の推進	○各種学力調査の結果。 ◇全国学力・学習状況調査(全国平均正答率+4P) ◇高知県学力定着状況調査(全国平均正答率+4P) ◇総合学力調査(全国平均正答率+4P) ○授業研究と授業改善。 ◇伝え合うための表現力(書く・話す・聞く力)を高める。 ◇学習の見通しと活動の意図を持った課題を設定する。 ◇効果的なグループ・ペア学習を行い、生徒同士をつなぎ広がりのある活動を行う。 ○ICTの効果的な活用。 ◇東部教志塾を活用する。 ◇授業づくり講座開催に向けた実践を各教科で生かす。	○各種学力調査の結果。 ◇全国学力・学習状況調査⇒+16.2 ※3年・2教科平均 ◇高知県学力定着状況調査⇒目標値正答率 +0.9 ◇総合学力調査⇒+1.2 ※全学年・5教科平均 ○授業研と授業改善。 ◇各教科において表現力を高めるために授業では書く、話すの活動を多く取り入れ、復習課題(宿題)も増やして点検も丁寧に行ってきた。ただし、生徒は真面目に取り組むが教科の特性や求められた条件に合わせ判断や表現には課題が見られる。生徒をつなぎ、広がるためのグループ活動やペア学習を日常的に行ってきたことで、全員が参加しながら徐々に意見を言えるようになってきた。ただし、理解が伴わない不十分な表現が見られるので、知識・技能を高める取り組みが必要である。 ○ICTの効果的な活用。 ◇ICT機器は、研修や教員同士の交流をもとにどの授業でも適宜活用できた。クラウド活用についても理解を深められた。町授業力向上シート2学期末「ICTが効果的に活用できた」3.5 ※4段階評価	A	○学力調査実施後の結果分析と全体共有を引き続き実施していく。 ○授業改善に向けては、本年度末の振り返りで出された課題をもとに、来年度に向けた全教科共通の重点項目を決め、教科間連携のチーム会を実践の場と位置付けて取り組んでいく。 ○ICTについては引き続き効果的に向け研究を進める。	・学力調査の目標達成や全員参加に向けての取り組みが行われている。 ・一方的に聞く授業ではなく、子どもたちが自発的に勉強する、授業に参加することはとても良いと思う。 ・学校内(生徒及び教職員含む)の関係性や雰囲気の良いさが情緒の安定をもたらし、学力の向上につながった結果のように思う。引き続き高い目標を掲げて取り組んで欲しい。 ・問題の正答状況把握等で、理解できていない学習について自己指導力と生徒支援方法等を追究することを大切にして欲しい。 ・生徒同士が教え合う仲間学習づくりやそれをサポートする教師集団のチーム意識をさらに向上させて欲しい。(重点的に取り組む課題である)	A
	朝の読書・帰りの学習の充実及び家庭学習の定着	○家庭学習時間(1年70分、2年80分、3年90分)の達成。 ○基礎学力向上と定着のための帰りの学習(小社会、これ単、復習)と家庭学習の充実と推進。 ○集中した朝読書の継続と読書活動の充実。	○家庭学習時間調べは学期ごとに実施しており、3学期調べの結果は、1年98分、2年75分、3年122分 ○各学年が帰りの学習や家庭学習を日々充実させながら取り組んでいる。 ○静かに落ち着いた雰囲気の中で朝の読書に取り組むことができた。学校読書アンケート「読書は好きですか」はいいの回答44%、「朝の読書は自分のためになっている」はいいの回答67%、「本はどこで読むことが多いですか」学校の回答68% ○国語科で4月から読書記録の取り組みを行い、月1冊以上の読書を目指し、全生徒が達成できた。	A	○学習時間調べの継続と生徒の意識の向上を図る。 ○帰りの学習は引き続き継続する。 ○新刊を約250冊購入し図書室の充実を図っており、今後も新刊整備を進める。 ○読書好きの生徒を増やしたい。	・家庭内ではなかなか落ち着いて学習や読書の時間がとれない生徒も、学校で全員で取り組むというメリハリのある時間は、短時間でも効果のある良い取り組みである。 ・生徒の学力差の配慮や宿題と授業のつながりの必要性など、勉強が好きになっていく方法などをいろいろ試し、生徒の自主性を育成することを考えてみてはどうか。	A
	UDに基づいた授業実践	○講師を招聘(高知大是永かな子教授)し、特別支援教育の視点に立った授業実践。	○特別支援教育視点に立った取り組みとして、講師の助言を基に全教員で連携を大事にしながら授業を行うことができた。	A	○来年度も継続して実施予定。	・子どもの個性に合わせた対応ができるよう取り組んでいる。 ・ユニバーサルデザインの授業はどの生徒にも大変効果がある。是永先生の講師招へいは是非続けて欲しい。	A
健やかな体	健康・保健教育の推進	○平日のメディアの使用2時間以内80%以上、朝食摂取率90%以上、睡眠時間7時間以上が80%以上をめざす。 ◇生活調査(年3回)を実施し、自己管理や家庭との連携を行い、基本的な生活習慣を確立させる。 ◇全体指導と併せて個別指導が必要な児童生徒に対して計画的な指導を行う。	平日メディア2時間以内58% 朝食 1品以上96%、3品42% 睡眠7時間以上89% メディアは、長時間利用の生徒が固定化している。睡眠は、ほとんどの生徒が7時間以上とれているが、就寝時間が遅いため7時間未満の生徒もいる。メディアの長時間利用により、睡眠時間が確保出来ない可能性もある。朝食は、食事内容は不明だが、1品以上食べている生徒は目標値を達成した。しかし、3品以上食べている生徒は半数以下だった。メディアの長時間利用や、生活習慣に課題のある生徒は固定化しており、その保護者の中には、困り感もみられているため、個人への保健指導などのアプローチや、保健だよりなどを活用して家庭への啓発をより強化し、家庭を巻き込んだ取り組みを継続することが今後の課題である。	B	○メディア使用時間が大きな課題であり、学習や睡眠等への影響もあるので、引き続き調査と啓発を行う。	・家庭と協力して生徒への指導ができている。 ・好ましい生活習慣を送っている生徒ほど、学習面と生活面の状況は良好であると考えられる。ほとんどの生徒がスマホを持っている今日では、保護者と学校が生徒との信頼関係を構築するなどして使用のルールを自主的に守れるようにして欲しい。 ・メディアとの接し方は全国的にも難しい課題であるが、逆にメディアの機能を使って時間の見える化(スマホのスクリーンタイム機能等)を調査や学習に取り入れてみてはどうか。	B

	体力・運動能力の向上	○体力の総合評価 C 以上 70%以上をめざす。 ◇朝の会でのグーパー運動、ジャックナイフストレッチを行い握力、柔軟性を養う。 ◇全校ランニング等の継続的な取組を行い体力向上に努める。 ○「運動することはすきですか」、「体育の授業は楽しい」の肯定評価90%以上をめざす。 ◇体育授業の改善・工夫、委員会活動等の充実により運動が好きな生徒を増やす。	○体力の総合評価 C 以上 67% 継続的な取組みを行っている3種目（握力、柔軟性、持久走）について経年変化を見ると記録は伸びてきている。 ○「運動が好き」81.4%、「体育の授業は楽しい」92.6% 全校、学級、体育授業、部活動で取り組むことによって体力も向上した。運動嫌いな生徒も体育授業や部活動を見学することなく取り組んでおり体力向上につながっている。体力の総合評価 DE の生徒の引き上げが課題である。 運動嫌いであっても、体育授業は楽しいと感じている生徒の割合は高いので、体育の授業の取組をととして仲間と協力して運動することが楽しいと感じる生徒を育成していく。また、準備運動にリズムジャンプを取り入れ、体力の向上を目指していく。	A	○体力づくりの活動を今後も継続する。 ○運動の得意不得意はあるが、体育の授業を楽しく感じており、全員が意欲的に参加している様子も見られるので、仲間と協力して運動が楽しいと思える授業や活動となるよう今後も継続して取り組んでいく。	・中学生は楽しむことを中心とした運動遊びから部活動を含むスポーツや持久走などのトレーニング的な活動が多くなると思う。保健体育の授業で楽しく積極的に体を動かしたり学習する風景を見ることがあり、非常に好感が持てる。 ・運動が苦手な子も取り組むことができている。授業が楽しいと答える生徒が多い。 ・全校ランニングはすごく良い体力づくりだと思うので1年中続けて欲しい。	A
	適切な部活動運営・指導	○ガイドラインに沿った活動を行い、適切な活動時間と休養を実施する。	○部活動平日 1 日、休日 1 日の休養日実施 100%（大会等は除く） ・引き続き計画的な部活運営を行う。	A	○引き続き継続する。	・楽しそうに活動できていると思う。 ・土・日のどちらか、水曜日は休みで休養が取れている。	A
豊かな心	道徳教育の推進	○学年団全教員によるローテーション授業を実践し、道徳意識調査「自尊感情」、「夢・志」肯定評価 80% 以上をめざす。 ○自尊感情を高める取組（ほめほめ習慣、ありがとうメッセージ等）の実施。 ○参観日や家庭学習において「家庭で取り組む高知の道徳」を活用し、道徳意識調査「家庭との連携」肯定評価 50%以上めざす。	○学年団全教員によるローテーション授業はどの学年もできている。「自尊感情」、「夢・志」肯定評価は「自尊感情」69%（全国学調 83.3）、「夢・志」82.8%（全国学調 66.3）で自尊感情が目標値を 11%下回った。 ○ほめほめ習慣、ありがとうメッセージ等は計画どおり実施した。 ○道徳参観日は1月に実施できた。「家庭との連携」は夏休みの宿題で取り組んだことで、79.3%と大幅に上がった。	B	○引き続き学年団で道徳の授業に取り組む。 ○自尊感情の向上に努めたい。 ○「家庭で取り組む高知の道徳」を活用し、道徳意識調査「家庭との連携」については、本年度同様に家庭で話し合う機会が持てるような取り組みを継続する。	・担任だけでなく、担任外の先生も道徳の授業を行い、切磋琢磨してどんどん授業に自信をもって皆に観てもらいたい気持ちになって欲しい。そうした授業は生徒もいきいきと授業に参加できると思う。 ・道徳授業から、生徒たちが他者への思いやりや正しい行動ができるようになって成長していく。良い教材は生活の中にたくさんある。先生は自分自身が道徳の教材になれるように、生徒から憧れられる人間になって欲しい。 ・「高知の道徳」で家庭で話し合いする意識を伸ばして欲しい。	B
	生徒指導の充実	○「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安心安全な風土の醸成」に視点を置いた授業実践を行う。 ○学校生活アンケート、QU を実施し指導に生かす。学校生活アンケートの「学校が楽しい」肯定的評価 85%以上、QU 満足群 50%以上をめざす。	○日々の授業の中に左記の視点を意識しながら取り組むことができた。道徳授業チェックシート「安心して意見が言い合える学級の雰囲気があった。」4.0(※4 段階評価)、学校生活アンケート「学校の先生は話を聞いてくれる。」肯定評価 100% ○学校生活アンケート「学校が楽しい」肯定評価は85. 7%と目標を上回った。QU 満足群について、学年差はあるが全校では62%が満足群にいた。	A	○これまでと同様に日々の授業を大切にしていく。 ○QU アンケートや学校生活アンケートを継続し指導に生かす。	・学校生活アンケートで生徒の肯定評価が 100%と高い。個々に応じて対応してくれていると感じる。 ・生徒と教職員の信頼関係が構築されているのはとても良い。 ・既存の取り組みは継続して、教員と教員、教員と生徒、生徒と生徒が仲良く、楽しい学校生活が送れるように、さらに良好な関係づくりに発展させて欲しい。	A
基盤となる体制等	地域との連携・協働	○主な行事、参観日への保護者の参加率 80%以上。 ○地域の協力を得た学習活動の実施。 ○町・地域行事等への協力。	○主な行事（体育大会、リサイクル、学習発表会、道徳参観日）には大半の保護者が参加してくれた。一方で行事を伴わない参観日については、目標には至らない。 ○町役場、集落活動センター、社会福祉協議会、JA,地元農家の方々、安田川アユおどるキャンプ清流キャンプ場等多くの団体・個人に協力をいただき学習につなげることができた。 ○津波避難経路の清掃活動、安田の夢まつりでの演奏、町内駅伝等への参加など町行事への参加を通じて少しではあるが貢献できた。	B	○町内外の多くの団体・事業所等から協力をいただき、とてもありがたく感じている。引き続き地域から応援してもらえる学校を目指すとともに地域への貢献もしていきたい。	・既存の取り組みは継続して、地域教材と地域行事への参加を増やして欲しい。 ・保護者が参加してよいものは、もう少し早くお知らせを出して欲しい。	B

	安全教育・安全管理の推進	○県の指標に基づき避難訓練・防災学習を実施し、学校評価「地震や災害等から身を守る安全についての学習や訓練を行うなど安全・安心な学校づくりを進めている」の肯定評価 90%以上をめざす。	○保護者の肯定評価 100%、生徒肯定評価 93%、避難訓練、各クラスでの防災学習の他、起震車体験、中芸消防署へ出向いての防災訓練(3月予定)等を実施した。2年生は総合の時間に防災をテーマに取り組んだ。防犯学習については、1学期に自転車交通安全教室、薬物乱用防止教室、非行防止・防犯教室、インターネットの危険性を外部講師を招いて学習した。	A	○引き続き、必要な避難訓練と様々な防災学習に取り組んでいく。	・防犯学習に力を入れており、生徒がしっかり学ぶことができている。子どもを通じて家庭での共有もできている。 ・教職員一人ひとりが、これからも必要に応じた学校安全に関する資質・能力を向上させて欲しい。 ・インターネットやSNS等で大人が把握できないような犯罪や、法にはギリギリ触れないグレーな非行が日々増えている。生徒だけでなく、保護者も含めて防犯学習は慣例に従わず常にアップデートしたものを取り入れて欲しい。	A
	不登校の予防と支援	○校内支援会を実施し情報共有を図るとともに、SC,SSW と連携し個に応じた支援を行う。 ○不登校傾向の生徒の欠席数を前年度より減少をめざすとともに新たな不登校を出さない。	○新たな出現はない。 ○支援会において情報共有しながら対応している。SC・SSW に面談や家庭訪問等協力をしてもらっている。 ○進路を控え改善したケースもある。それぞれの状況に応じ粘り強く対応を続ける。 ○専門家の助言を参考に対応している。	B	○保護者と連携しながら粘り強く支援を継続する。 ○専門家の助言を参考にする。 ○SC・SSW と連携して対応する。	・不登校生徒がいらないに越したことはない。しかし、いつか不登校になる生徒や不登校の生徒が入学してくることがあっても、誰もが安心して学べる魅力ある学校であって欲しい。今まで構築してきた良い雰囲気のを学校を継続して欲しい。	B
	働き方改革の推進	○業務の見直しと意識改革を行い、時間外勤務月 45 時間以内(80%)をめざす。 ○校務支援システムを活用し業務の軽減を図る。 ○定時退校日、学校閉校日を設定する。	○1月末現在は 78.3%、目標に近づいた。効率化の意識はある。大半は部活指導となっている。 ○学校閉校日は実施するものの、部活の大会等との重なりがあり、勤務となる職員もある。	B	○職員の業務の効率化やメリハリをつける意識は向上している。部活のない日の定時退校や長期休業中の年休取得等を進める。	・ベテラン教員が多いので、教材準備や校務分掌の仕事内容、事務処理等については経験を積んでいると思う。改革のねらいを理解することはできても、なかなか勤務スタイルを変えることはできにくいのは分かる。 ・先生の休養確保のためにも外部コーチに頼ることは難しいだろうか。	B
	不祥事を生じさせない	○風通しの良い職場づくりを行う。 ○定例職員会で共通理解と注意喚起を行う。	○日常的に職員間のつながりを大切にできている。 ○研修計画に沿って研修を行った。	A	○引き続き風通しの良い職場づくりと注意喚起を行う。	・県内で不祥事が多発しており、教職員の資質向上だけでなく、不祥事を未然に防ぐ管理を行って欲しい。 ・一人ひとりが危機管理意識を継続して欲しい。	A